

水の心を「ころ」としよう

水は、どんな場所でもどんな容器でも入れることができる。それは、合わせることができる素晴らしさ。

人の心は顔が違うようにいろいろで違いがある。

相手の性格を見極めたら、水のようになったら良い。

障害にぶつかったときのことを考えてみよう

水は抵抗しない、うまくよけて通る。

また、その障害の上を水は柔軟に乗り越えて行く。

その柔軟な水のころを、ころとしよう

その柔軟な水は、小さな水滴となり、

忍耐強く打ち続けると、岩にも穴を開けてしまう。

角ばった岩石などは、この柔軟な水により角が採れて丸くされてしまう。

水をせき止めれば、せき止めるほど素晴らしい力を出すのも水である。

さらに水は、汚れた泥もきれいに流してしまう。

そんな力を水は持っている。

清濁合わせ飲む水のような気持ち、なぜ分ってもらえないのか、

「わかってくれよ」と思わないでいわないで、自己を主張せず、

「わたしはまちがっていない」と言い張らないで、

「認めてほしい」とも思わないで、

「君のために言っているのだ」はやめて、

「どうしてあげたらいいの」となげやりにならず、

「わたしの気持ちも分ってくれよ」と主張せず、

「あいつは言っても無駄だ」とあきらめず、憎まず、

なめらかに、忍耐強く押し付けず、相手を変えようとししないで、

そして、相手に、刺激も敵意も感じさせないで、

そのときには水の心に近付いて、

水は小さく小さく刻めるし、大きく大きくもできる。

その水とは二度と会えないし、水の流れは、永遠に止まらない。

水を考えると深い、深いのもっと知りたい。

水の心になるには、自分が無にならないと無理なように思える。

このテーマは一生のテーマだ。

忘れず一生挑戦しよう。